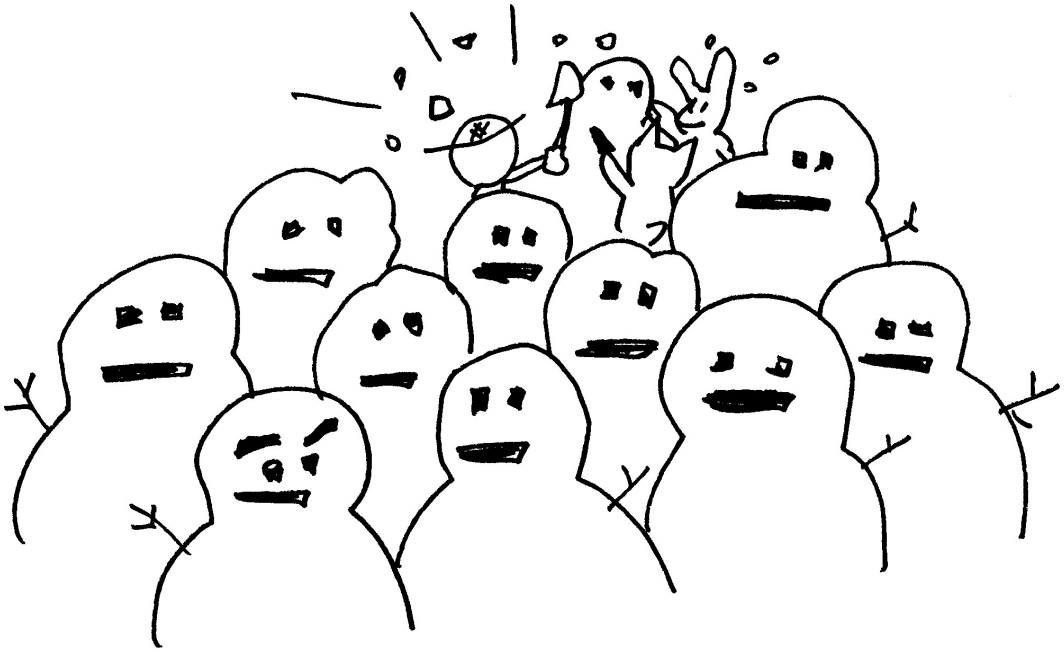
上田地域もの・こと交換制度

蚕都くらぶ

ま～ゆ

蚕都くらぶま～ゆ会報 **No.21** 2005年1月10日発行



代 表　　安 井 啓 子

ま～ゆ 連絡先　前 田 光 俊

〒386-0041 上田市 秋和 503-6

TEL/FAX　　27-1230

メールアドレス　　ma-yu@po9.ueda.com

ホームページ（検索エンジンで 地域通貨 ま～ゆ を開いてください）

12 月9日　21:15 ～、NHKの

ご　存知「上田地域通貨ま～ゆ」

きん　年、

じょ　うだんにも、きめ細かいとは言いかねる福祉行政

の　う作物も安全とは言えず

そ　の上

こ　どもは県外在住

力　仕事も頼めない

で　もね、仲間がいるよ、ま～ゆの仲間。

ぜ　い金？地域通貨に消費税？

ん　ん‥‥

こ　れは、びっ

く　くり、驚いた。

デ　もね、皆で知恵を出し合えば

ビュー　ティフルに解決できるで

し　ょう。

た　のしいこと

ま　ちがいなし

～（あ）　かるく

ゆ　めと、勇気と希望を持って

で　あいを大切に

す　てきな年にしましょうね2005年。

ありがとうございました。
2005 年も、よろしくお願い申し上げます。　永井 克己

NHK スタジオ101で収録

ひょんなことから? 地域通貨ま～ゆがNHKの**ご近所の底力**のデレクターの目にとまり、打ち合わせに再三の来田。

そののち タレントの清水圭さんがま～ゆ市に参加、 ”ヒラタケ”お買い上げ。 その支払いがま～ゆでの我が家の落ち葉はき とつながり、ビデオ撮影のため時間待ち、緊張の2日間がようやく終わりヤレヤレと思ったのもつかの間、突然のNHKスタジオへのお呼び出し。

「嘘、でしょ」と絶句しました。

ジタバタしたところではじまらず、まな板の鯉ならぬ“波打ち際にヨウヨウたどりついた鯨„の態での参加です。

平常のままといわれてもそこはそれ、花も恥らう御年ウン10歳。ザンギリ髪に白髪頭ではあんまりな、ということで美容室のお世話になりました。 ところがどっこい、メークさんが付いてくれ”目”は普段の3倍にもなりました。

NHKに入るや落ち着く間も無くリハーサル。せりふらしきものも渡されましたが覚えようとすれば尚のことドキドキ。1番手の岐阜の皆さんの尋常ならぬ上がり方を目にしてようやく少し落ち着けました。

メークさんは本番中もそばにいて何度も顔にパフを当てられました。

なんかタレントさんみたいな気分になりました。

本番といっても慌しいものでなく 落ちついた雰囲気で1つ1つ丁寧に進められました。

堀尾アナウンサーが上手く話を引き出してくれるのですが 何を聞かれるか判らないので多少緊張しました。

カメラが目の前に何台も迫り、腰から下の位置で大勢の人達が動きまわり撮影は進みます。

タレントの 松居直美さん、テークツーのお2人と横に清水圭さん、すぐ身近にいて一体感を味わえました。

清水圭さんは上田でのことをしっかり受け止めていてくれ皆と握手。 都々平サンは盛んに冷やかされていました。

終了は11時少し前。さすがに疲れました。 ホテルに入りアルコールとおむすびで盛り上がりました。

この番組が意図するのは矢張り”高齢化”の問題であり”人と人”のつながることの大切さ。それをどう構築するかということでしょう。

”ま～ゆ”がそれぞれにコト・モノの提供で仲間作りをし広がっていることが今度のテレビ出演につながったんだと痛感しました。

貴重な体験させてもらいました。
皆さんに報告とともに感謝です。
ハコ

12月23日はま～ゆ恒例の餅つきが行われました。ぺったん、ぺったん調子のいい音が辺りに響きます。手際よく？のし餅が作られていきます「お昼は簡単にあんころもちと、大根おろしだね」なんて言っていたらとんでもない。ホウ葉みそに刻みねぎを混ぜたもの（ホウ葉は上田産）、それから海苔・大根おろし・刻みねぎ・鰹節をしょうゆで味付けしたものがテーブルに並べられました。「初めて食べたよ、こんな食べ方もあるんだね」。前日に挽いたきな粉もそれだけで甘みがあり、それらがどれも美味しかったこと。力仕事のあとはビールを飲みながら、ワイワイガヤガヤ、いつものように賑やかなお昼になりました。　ミーすけ

ま～ゆの皆様くれぐれもご用心ください

「おれおれ詐欺」顛末記

№2 中島ごんべえ

昨年の11月半ば午後2時過ぎのことです、電話のベルがなり出た所「お父さんやっちゃたよ！女の子を轢いちゃったよ！」と泣きながらの息子の声です。「どうしたんだ、しっかりしろ！怪我の具合は？今何処だ！」交通事故。女の子。死にそうだ。瞬間の事に頭が真っ白になってしまいました。矢継ぎ早に更に問い掛ける私に、息子は泣きながら弁護士と代わるといいます。

電話に出た弁護士は西田と名乗り、女の子の怪我の状態を問い掛ける私に、「現在救急病院の集中治療室で意識不明の状態です。息子さんの処置が適切で早かったため、命だけはつながっています」「すぐに行きます。どこの病院ですか？」

「今ご両親は錯乱状態で話が出来ません。私からの連絡を待っていて下さい。まず保護者の確認をさせて頂きます。あなたのご住所は？」ひきずり込まれるように「長野県上田市秋和…・」と答えていました。「息子さんの住所は」「横浜市青葉区？その先はちょっと分かりません」本当に分からなかったのです。「何処で事故を起こしたんですか？」

「横浜駅の近くです。ともかく今回の事故は息子さんが携帯電話を使っていて、飛び出した女の子への対応が遅れたのです。過失は明らかで今晩は拘留され、続いて検察に送られます。保釈金と言うのはご存知ですか？出来るだけ早く入れて頂ければ今後の対応に有利ですし、私も責任を持って事に当たります」「いくら何時までに払い込むのですか？」「300万円今すぐにです」

このあたりでちょっと変だぞと思い出しました。「ところで弁護士のあなたを誰が依頼したのですか？」「息子さんは友達の小出さんの車を運転していました。小出さんの入っていた大東京火災…からの依頼です。先方への補償は責任を持ってやりますので、この点は心配ありません」

後で考えると脅したり、なだめたりの実に巧妙な心理作戦でした。正直この時点では金のやりくりを算段してしていました。「ともかく時間を下さい」「2時40分までに返事を下さい」「分かりました。あなたの電話番号は？」「090-8430-8405です。くりかえして下さい」ちゃんとメモったので良く覚えています。電話を切った時点では、いろいろな事が頭の中でぐるぐる回転していました。しかしだんだんと落ち着いて来て、まず息子と連絡を取ろうと思い携帯を押しましたが繋がりません。

会社に所在を確認したところ、成田に行っているとの事。更に横浜戸部警察署に電話し、今日の午後管内で女の子の人身事故があったか確認したところ、無かったとのこと。ここではっきりと我に返りました。

その直後、息子から電話が入り「親父も修行が足りねえな。こんな調子だから百何十億もひっかかる訳だ」「ばかやろう！携帯掛けながら運転しているのは誰だ！」「今も運転中だよ」ときた。日頃へたくそな運転と、ながら運転を見ていただけについつい引っ掛かりそうに成ってしまいました。しかし考えてみれば息子はもう一人前の大人。親がどうこうすべき話ではありません。日頃偉そうな事を言いながら、詐欺にひっかかりそうになり、自らの不徳を悟りました。心の修行怠るべからず。深く恥じ入ったごんべえでした。

ところで、身近でもこのような詐欺事件が頻発していたのです。このような事件を総称して「振り込め詐欺」と命名されました。被害総額は200億円を越えるそうです。ちょっとした心の隙を巧妙に突いてくる手口は断じて許せませんが、突かれる側も情報を他人事とせず、きちんとインプットして余裕を持って対応する事が必要です。

ま～ゆな人

№9 ニシチャンこと　西沢 修さん

通称（ニシチャン）そう　～なにかのときに、いつも刃物を研いでいる、あの…ニシチャン…です。

仕事柄毎日 20 本以上の刃物を研いでいるから、どんな刃物でも殆どは研げるとのこと。どうぞ、ま～ゆのみなさんは、ご利用くださいませ。

この・ニシチャン…現在は、上田市の学校給食の仕事をしている公務員である。今は青木村に在住。家の 900 坪の田畑で採れる収穫物で、食卓は殆ど買わなくても間に合う。（これって今一番の贅沢かも??）かっては仕事で、東京・大阪等で 13年10か月位過ごし地元へＵターンして、現在に至る。

青木村に住んでいて、上田にある職場へ通っている。これからの、上田市の合併についての感想は、個人的にはしないほうがいいと思う、とのこと。大きくなればなるほど、運営はタイヘンなのでは……市だけで運営できれば、それに越したことはない。 と思う。生まれた頃に丁度青木村の、合併がされた。

ちなみに☆ 生年月日　昭和 32 年生まれ

☆ 血液型　　Ａ型

☆ 星座　　双子座

☆ 男子３人 女子１人の４人兄弟の３番目

☆ 現在独身

☆ 球技は、殆ど経験した。

☆ お酒は付き合い程度

☆ たばこは吸う

☆ 尊敬する人　別になし

☆ 好きなタイプ　頑固親父（融通がきかない、チョット間が抜けていて、かわいい頑固）
笑えるそんな親父・・・将来は自分がなりたい。

なお、つけばの＜鯉西＞さんは、親戚。ご利用の方はどうぞヨロシクネ。

人が好き。そのためか性格的にあまり苦労した、ということはない。
でも、波長が合わない人とは、付き合わないタイプだとか。
人が好きこんなところが、性格的に合うのか、今やっている：送迎ボランティアは：楽しいとか、こんな所にも自分らしさを発揮できる“場„ をしっかり確保していた。・・
ニシチャン・・にこれからのま～ゆに対して聞いてみた。

＊ 球技はなんでもやったことがある。というニシチャン・・スポーツもとりいれたらどうだろうか？と　ま～ゆの仲間には、このスポーツが得意という人が居れば、それを呼びかけて参加するのもいいのでは？。たとえば以前に行った＾自転車で走ろう＾のような企画も希望したい。

＊ 子供の会員を増やして親と一緒に和めるように、したらどうか？。今現在子供会員は１人……親と一緒に来てる子供たちが、入会して、たとえば・あそび塾・の子供たちとの交流をしてもいいのでは…とまだまだま～ゆに対しての夢は広がるばかり…

いつも黙ってひたすら、包丁を研いでいる・・ニシチャン・・のイメージとダブル。秘めたこんな思い（ま～ゆにたいして）があったんだ。と改めておもつた・・ニシチャン・・でした。

コボル記

太郎山～虚空蔵山縦走路 整備ボランティア作業に参加して

№7 のび太

以前は食料や燃料、飲料水など生活の糧を生み出してくれていた
身近な里山がここ数十年間、手入れがされていないため荒れています。
フジツルにからまれている木は成長ができず、やがて枯れてしまいます。
荒れた里山の光景は昨今の世相を映し出しているようにも思います。

11 月 28 日と 12 月 10 日の２日間、太郎山から虚空蔵山を経て岩鼻までにいたる縦走路整備のボランティア作業に参加しました。西部公民館が事務局となり主体的に参加していただいた２日間延べ125名もの方々と３班から４班に分かれての作業で見事な縦走路ができました。

道中にはベンチを備えたミニ公園なども設けた他にビューポイントとして何カ所か木を伐採しましたので、それは見事な景色をご覧頂けます。一部に急な岩場を登坂する箇所があり、気を付けていただきたいのですが全体的には変化に富んだ素晴らしいトレッキングルートです。

尾根を縦走するゆっくり一日コース。また気楽に２～３時間コースとして緑ヶ丘や秋和、塩尻地区へ下るルートもいくつかありますが、こちらはまだ道標が設置されていませんので最初は詳しい方との同伴をお薦めします。

今回もまた、新たな出会いがありました。
共通の想いを持つ方々と一緒に汗をかくのは何にも代え難いものです。里に下りてから一風呂後の冷えたビールがまた一段と美味しかったのは言うまでもありません。

小千谷のみんなに、愛を込めて。

おじゃること　秦 健二

新潟県中越地方に地震が発生したときに、阪神大震災同様に全国各地からボランティアが駆けつけた。俺は、被災地ボラに行きたい気持ちの反面、体調の不調もあり俺に何が出来るのか？そのことばかり考え実行に移せなかった。

そんな俺の心を被災地ボラの実行に奮い立たせたのは、長野に着いてから出会った友達の死だった。俺は、彼の前でお線香を供えた時に、「こんなに素敵な人が、50代にして亡くなってしまった。もっともっと生き続けてほしかったのに」そう感じた。

それに比べ俺は、自ら自分の命を絶とうとした。なのに今、こうして生きている。

『逆じゃないか？』

そう思った時、二度目の命。困っている人の為に使おう。そう決意させた。今から思えば、ただの偽善だったのかもしれない。でも、その時俺は、純粋にそう思ったのだ。

そしてもう一つ。

俺の元にこんな情報が入ってきた。それは、震災直後に小千谷市に被災地ボラ入りした人からの生々しく腹立たしい情報だった。一つは、報道陣のずうずうしさ。そして、市役所前の駐車場に周りのことを考えず、ずさんに止めてある車の数々。

まだ一つ、それは、あるバカな国会議員先生様の話である。そのバカな国会議員先生様は、被災地視察！と銘打って、小千谷に来たそうだ。どうせ、ただのパフォーマンスである。そのバカは、生理的現象をもよおしたらしく、小千谷のボラスタッフに「トイレは何処かね？」と尋ねたそうだ。ただでさえ、そのバカのパフォーマンスに付き合っている暇はなく、小千谷は水道が寸断されトイレの全てと言ってよいほどが、仮設である。勿論、そのバカにも仮設トイレを案内したそうだ。するとそのバカは、「私に仮設トイレを案内する気かね。」と言ったそうだ。バカが、バカを丸出しにしていた。「おまえは、視察にきたんだろ！」その時の現場は、そのバカに対する怒りで満ちあふれたそうだ。

そんな情報も聞いていたので、この国のことを決める奴がこんなバカでも、俺等、一市民が本気でことを起こせば、絶対に誰かの役に立てる。そう思ったからだ。

俺は、情報収集と、もしもの為のボラ保険に加入する為に、社協を訪れた。俺は、行く以上は小千谷に行きたかった。そして、その現状を、この目で確かめたかった。しかし、10月末現在、小千谷の情報は入っておらず、俺は十日町へアクセスし、仲間に物資の提供を募った。

ボラに行く条件は、自分の寝場所は自分で確保すること。“自分で食べる食料と水は、自分が持ってくること„ だった。俺は、愛車に布団とポリタンク２つに入れた水、そして簡易的な食料を積み込み、集まった物資を乗せ、十日町へと走らせた。信号が作動しているかどうか すら分からない十日町へ。

十日町までは、道路もしっかりしていて、信号も正常に作動していた。そして、『避難勧告解除』と書かれた紙を前にした。それと同時に、前日まで寸断されていた、小千谷への道が、なんとか通れるようになったことを知った。

チャンス！俺は、予定を変更し、小千谷へ向かった。

途中、道路の半分が決壊してした。不安がこみあげる。小千谷に着くと、いくつかの信号は機能していなかった。

ボラ登録を済ませ、預かった物資を渡し、俺の被災地ボラが始まった。

心のケアに回ろうとしていた俺の元に、『避難所での、子どもの遊び相手と心のケア』というニーズが挙がってきた。　「よし、これだ!!」俺の得意な分野のニーズに飛びつき、避難所へ行った。

俺が行った池ヶ原地区は、体育館ではなく、作物を作るビニールハウスでの生活を余儀なくされていた。数日後に採れるはずだった作物を全て撤去し、ござを敷き、一家族の使用可能面積は、驚くほど手狭だった。そして、その地区の小学校は、地震により安全が確保できない為、子ども達は入ることが出来ず、唯一大丈夫だった公民館に集まり、自主授業になっていた。

子どもによっては、家の片づけにかり出され、自主授業に参加出来ない子もいた。俺は、一緒に勉強をするも、ある子どもは地震の恐怖のあまり、算数の計算の仕方が分からなくなっている子もいた。

午後になり、子ども達と遊ぶことになった。遊んでいても、子どもらしさが感じられなかった。子どもって、本来わがままでよいものである。なのに、地震のせいか、自分より小さい子が優先であり、がまんするのはあたりまえになっていた。それは、現代の子ども達に一番必要なことであるのだけれど、とにかく子ども達にわがままの言えるような心のケアが必要！と、俺は感じた。

二日目になり関わる中で、少しずつ子ども達の『じ』がでてきた。遊びを通じて、更に『じ』がでるように関わった。しかし俺は、ある失敗をおかした。それは、汗かきの俺は子ども達と遊ぶ中で、多量の汗をかき、日頃いつも持ち歩いてる水を飲んでしまったのだ。子ども達は、急に物欲しそうな目をした。子ども達は、自由に水を飲むことが出来ていなかったのだ。

誰かが、「被災地の人は日本中の水が飲める。」なんて言ってたが、確かに物資として日本各地から水が送られて来ていた。池ヶ原地区にも沢山の水が届けられていた。がしかし、それらは倉庫に大切に保管され、子ども達やその家族が自由に飲む訳にはいかなかったようだ。だから、おもいきり体を動かした子ども達は、喉がからからだったのだ。自由に水が飲めない子ども達の前で、俺は、当たり前に水を飲んでしまった。

凄く後悔した。なのに俺は、続けてこの後失敗を犯すことになる。俺は子ども達と遊び、汗をかいていたので、汗くさかったようだ。子ども達に「汗くさい」といわれ、「じゃあ、今日お風呂にはいってくる。」と言ってしまったのだ。小千谷では、ボラ向けに一カ所だけお風呂が用意されていた。俺は、うかつにもそのお風呂に入ると言ってしまったのだ。

震災から一週間あまり、池ヶ原地区では、殆どの人がお風呂になんて入っていなかったのだ。そのことも知らず、俺はとんでもないことを言ってしまった。

俺はすぐさま、みんなに謝った。すると子ども達は、「おじゃるが臭いのより良いや」と優しい強がりを言ってくれた。俺は、みんなが愛おしくてたまらなかった。

４日目になり、だいぶ子どもらしさがみえてきた。俺は少し安心し、愛おしい子どもたちと涙の別れをし、来年の再会を約束した。

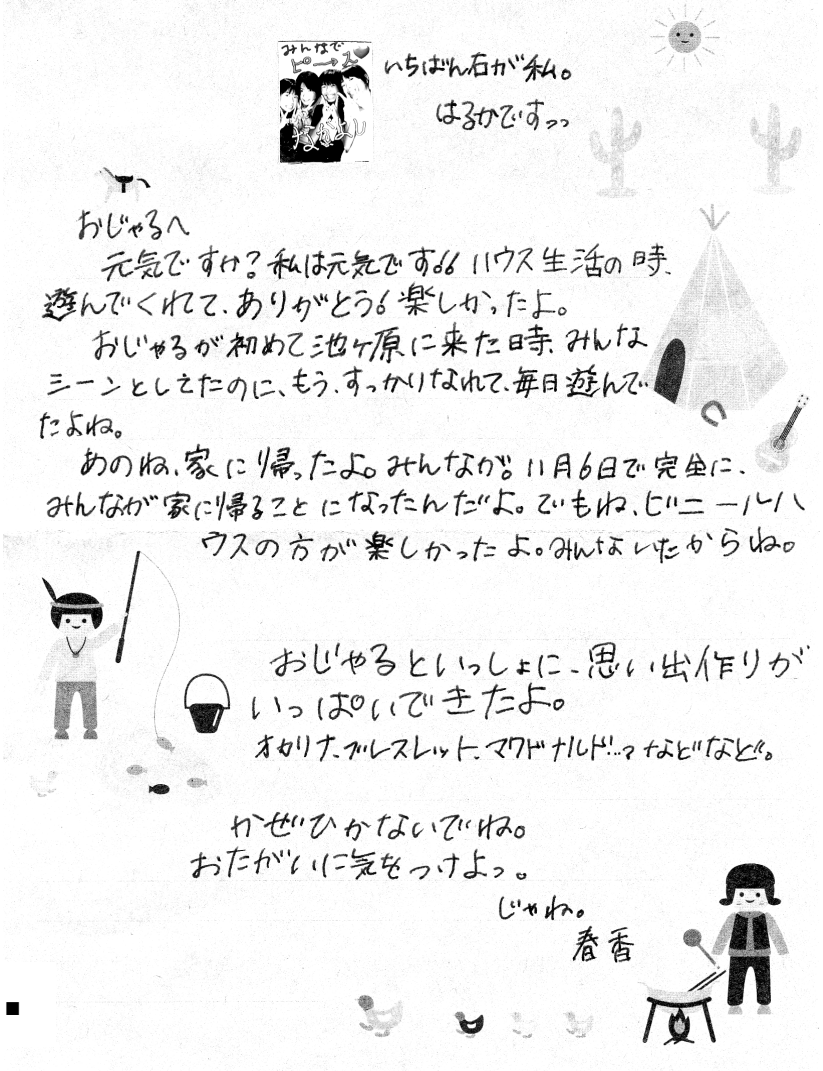
俺は、子ども達と関わる一方で、仲間と別のボラの協力をしていた。仲間は、障害を持つ被災者の支援を行おうとしていた。しかし、避難所から障害を持つ方のボラへの要請が挙がってこない。

そんなはずはない。この世の中の３％の人は、何かしらの障害を持つと言われている。なら、当然小千谷にも、その人口の３％ぐらいは、障害を持つ人がいるわけではないか。

ニーズが挙がってこないことに苛立ちを覚えセンターに追求したところ、実はセンターも把握できていなかった。そして、時間が経つごとに理由が分かってきた。障害を持つ多くの

人が、避難所での生活の環境の変化に耐えきれない。とのことで、危険を覚悟で10日あまりの時間を自宅で過ごしていたのだ。その家族には、情報も物資も殆ど届かずにいた。俺たちは切ない反面、なんとかしよう！と動いた。
そして、11月４日にようやくセンターと交渉し、ボラが自宅の住所を入手し、各家庭を回り始めた。
これから小千谷近辺は、大雪がふるだろう。ボラがほんとに必要なのは、これからかもしれない。俺達、ちっぽけな一市民でも、出来ることは沢山ある。無理はしなくていいんだ。自分にできることからはじめようよ。俺は、小千谷の復興を心から願い、池ヶ原の子ども達の元気になった笑顔を、来春見に行きたい。

負けるな、被災地のみんな ■



私からあなたへ　ま～ゆとの出会い

No.119 たまちゃんこと 田 玉 胡 江

地区公民館で地域通貨ま～ゆの話がありました。2 年近く前でした。
寒い日でしたけれど、以前より関心があったので聞きに行きました。お話しにこられた方は中島さん・黒田さんのお二人で、会が出来た成り行き、ま～ゆ田んぼのことなどスライドを使って実に楽しそうにお話されていました。地域通貨の細かいお話を聞いたけれど、その時はよく理解できませんでした。でも、自分なりによいことだと思ったので、早速申し込みの用紙をいただき、しばらくして入会しました。

最初のま～ゆ市、知り合いも無く心細く緊張しながらの出席。皆さん用事をテキパキこなして意見の交換をしていました。会費を納めながら私は「提供できるものが無いのでどうやって自分の通貨をプラスに持っていけばいいのか分からない」と言いました。すると近くにおられた男性に「腕がある、身体があるじゃないか」と強く言われました。そうだ□物がダメ・頭がダメなら“腕と体だ„と自分に言い聞かせました。

最初のま～ゆ交換は斉藤さんの皮のペンケースでした。マイナスからの出発でした。それからいろいろ腕と体を使ってま～ゆを稼ぎましたが、最近は支出が多くなって、12 月 10 日の今はちょうど残高ゼロになってしまいました。
「ああ面白い」「ああ楽しい」ま～ゆの日々を送っています。

次はまーゆで最初に握手したぶんちゃん(斉藤さん)にバトンタッチ、よろしくお願いします。

都々平・ミーすけの エコ²家族

廃材 → ストーブ → 炭 → 灰

およそ8年前、店の暖房を灯油から薪ストーブに替えました。年々収益が落ちていって、煙突のついているポット式の石油ストーブでは経費がかかりすぎるのが悩みでした。ある日、ホームセンターで偶然目にした薪ストーブがナント3000円だったので即座に買い求めました。

煙突を始め付属に 8000 円ほど投資し、その後薪割りやらの道具にはその 2 倍は掛けましたが、当初は大工さんの廃材を調達したり、枝打ちした木を集めていました。そのうちにあちこちから「これ、燃やしてくれる？」の声が殺到して断るのが大変なくらいになりました。ですから燃料費は“タダ„。思いっきり焚けるし、お湯が沸くし、煮物も焼き芋まで焼けるので店の空気と一緒に懐もあったかくなりました。(でしょうかね?)

このストーブから取れた炭は居間の掘りごたつに移動して、夜の暖房はもっぱらこれに頼るようになりました。豆炭の消費量がグーンと減り、いやなガスの臭いもあまり出なくなって気分までよくなったのは言うまでもありません。

まだ余るこの消し炭はバーベキュー用に取っておくつもりで箱に詰めておいたところ、ご

んべえさんから素晴らしい知恵を拝借しました。この上に果物を乗せておくと“日持ちの効果„が絶大なのです。野菜もいいらしいのですが、ナントいっても感激なのはバナナです。まだ青いような色をしている特価品が約 1 週間で特級品に変身するから「すごーい」。

また、わが家では一昨年ま～ゆで作った竹炭を浴槽に入れてエコ² 生活の強力な助っ人にしています。これによって 3 人が 3 日間入れ替えなしで入っています。軟らかな湯のお風呂は満足感でいっぱいです。勿論臭いなんか無縁です。

炭はほかにも利用できるようなのでその効果に注目し、試してみたい気持ちでいっぱいです。

髪の毛(有る人の場合)と同じように黒い炭は白い灰となって行きます。白髪は役に立たないでしょうが“灰„の効力はこれまた絶大で、利用範囲が結構あります。わらびの灰汁抜き用には毎年 1 斗缶届ける所があるくらいで大変重宝がられています。また、洗剤としても大変なスグレモノです。わが家の調理台はステンレスのエンボス加工で、くぼみの汚れが市販の洗剤では取れなくて困ったのですが、暮の掃除でナイロンたわしに灰をつけてこすったところ驚くほどきれいになりました。ガラスのコップ類もこれに限ります。ほどよいザラザラがクレンザーの役目もしてくれますから。そして何より自然そのものがいいじゃありませんか。ま～ゆでお分けしますからぜひ試してみてください。

ま～ゆが発足する前でしたが知り合いの方から灰の中から釘を拾う道具(強力な磁石)をプレゼントしていただいたので、灰はふるうのが大変楽になりました。いろいろな人に支えられてのエコ² 生活は楽しくて面白くて、とっても快適です。

産業廃棄物の廃材が燃料になり、そこで生まれる炭はエネルギー以外の使い道があります。さらに成れの果ての灰までもがとっても役に立つことに改めて目を見張る思いがします。

経済的な事情から“やむをえない気持ち„で始まったわが家のエコ² 生活が、当初では思いもよらなかった副産物を生みました。「まだ使えるから捨てない」ばかりではなく、「もっと使える」のだったら捨てるわけにはいかないでしょう。自然から生まれてきた物をとことん使いきることが唯一私に出来る“環境を守る運動„だと思うようになりました。

ま～ゆ＆お世話さまの皆さん　　＜須 川＞

今回は田んぼや畑をお借りしている上田市須川地区のことを紹介しましょう。須川地区は須川湖で有名。標高700m。古文書にも名が出る歴史のある集落です。最盛期は50戸ほどありました。しかし近年は住民が便利な市街地に移り、30戸弱にまで減ってしまいました。今では上田市で一番の高齢化地域、そんな訳で由緒ある田んぼや畑も徐々に手つかずになってきました。そんな時、偶然にま～ゆとの出会いが生まれたのです.

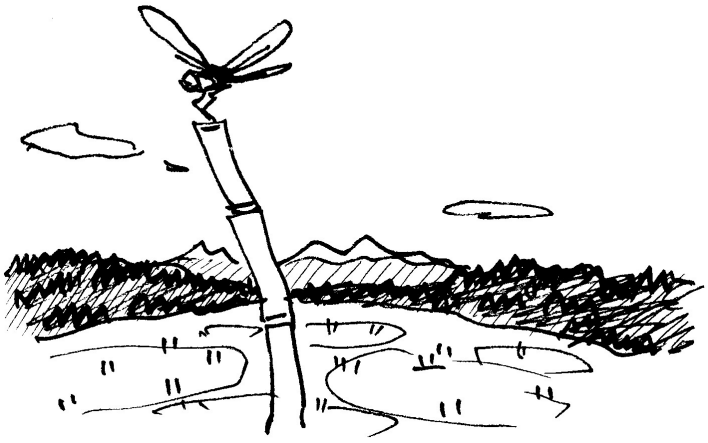
ま～ゆと須川とのお付き合いが始まったのは田んぼプロジェクトがきっかけです。2002年の春、自分たちで米を作ってみたい！という素朴な動機で動き出した「田んぼプロジェクト」ですが、肝心の田んぼはまだ決っていませんでした。そんなとき「須川の田んぼを見てくれ」と誘いがありました。「須川に田んぼなんてあったかな？」と、怪訝な気持ちで行ってみたら、谷筋に「素晴らしい棚田」がありました。「アルプスも見える」と聞いて、即決定！早速に休耕田５枚を貸していただき、かくして須川田んぼプロジェクトが始まりました。

青木一郎さん
（68 ・ 農業　元須川自治会長）

優しい笑顔が印象的な青木一郎さんは須川生まれの須川育ち、農業一筋です。ぶどうなどの果樹を栽培しています。青木さんはそんなま～ゆの人たちが田んぼ作りやイベントを始めるのを見てショックを受けたそうです。田んぼや畑は「生活の糧を得る場所」と信じきっていた青木さんにとって「田植えを楽しんだり」「田んぼで合唱する」なんてまったくの想像外、すごく新鮮でうらやましく見えたそうです。「住民が気が付かなかった須川の一面を外の人たちが発見してくれた」と青木さんは感心してくれました。

ま～ゆの登場を「須川への貴重な刺激」と青木さんは積極的に評価しています．その後も、ま～ゆに注目する青木さんや須川の皆さんは田んぼ・畑プロジェクトやほたるコンサート、ジャガイモパーティー(収穫祭)など、沢山のま～ゆの催しを応援したり、参加してくれています。須川の住民とま～ゆのメンバーのお付き合いは、ゆったりだけど、確実に進んでいるようです。

須川で一番気に入っている場所は？と、青木さんに聞いたら、青木さんは待ってましたとばかり高台の一角から望む「雄大な北アルプス」ですと、答えてくれました。実は須川は眺望のよさでは隠れた穴場。あんまり宣伝すると騒がしくなるので多少控えめに･･･。でも須川から望む冠雪した北アルプスの山々は本当に素晴らしいですよ。



須川といえばやはり須川湖。須川湖は江戸時代に整備されたかんがい用の湖。かつては国体競技も開催されたほどの氷湖です。ま～ゆの皆さんの中にも「子供の頃スケートしたよ」なんて、思い出の方も多いでしょう。青木さんたちが子供の頃は周囲3km の湖を泳いで縦断したそうですが、これはかなりの距離です。「今、考えるとかなり危険な遊びだった」と青木さんもゾッとした表情で話してくれました。その須川湖も暖冬のせいか、氷が薄くてスケートは禁止。それに外来魚のブルーギルがはびこって、昔ながらのエビや魚が絶滅状態だそうです。う～む困ったことです。とは、言っても・・・

「遊ぶところに事欠かなかった」と青木さんが自慢するほど、須川はまるで箱庭のように「自然の楽しさいっぱい」なところです。

自慢の「すばらしい自然環境」に「どんどん新しい風を吹き込んで欲しい」と、おっしゃる青木さん。さ～て、これからのま～ゆと須川の皆さんとのお付き合いがますます楽しみです。ともかく、皆さんも一度出かけてみてください。

四季の草花も豊富、なかでも「ゆうすげ」は須川地区の自慢の花です。夏の夕方に、棚田の周りに咲く黄色い花は何とも風情があって良いものです。

ホーおじさん 記

予告

今年のま～ゆ味噌は手前率 90ウン％ ■

昨年自分たちで収穫した大豆と、米で今年も安全でおいしくて安上がりの味噌を作りましょう。おまけに道具も自前になりました。

今年は少し暖かくなった 4 月ごろを予定しています。

味噌が不要でも味噌作りに関心のある方、手伝ってみたい方の参加も大歓迎です。

今年のお正月は「おめでとう」のことばを明るく言えない気持ちでした。
積もった雪を見て中越地震の被災者の厳しさを思い、毎日流れてくるマレー沖津波の悲惨な映像に涙を流し、泥沼化した砂漠の悲惨な戦いに胸が締め付けられる思いになって……。
私の周辺にも、笑顔から程遠い人は少なくありません。

降りかかってくる運命にはどうしようもないかもしれませんが、せめてその時に“心のご近所„があったら、いくらかなりとも癒されるのではないでしょうか。ま～ゆはモノ・コトを交換することによって派生する会員同士の「遠くの親戚より近くのま～ゆ」効果が着実に上がってきて、数ある地域通貨の中でも突出した存在に育っているようです。ちょっと手前味噌めいた書き方をしましたが、ま～ゆには手前味噌を 3 年も作っている実績があります。

そして先月は 4 回目の餅つきをしました。ここでは、それぞれが自然に持ち場についてとてもいい流れでした。つきあがった餅がくっつかないようにテフロン加工のフライパンで運んだり、篩(ふるい)を使ってのし板に片栗粉を満遍なく撒く知恵と技を知っただけでも「ま～ゆに入っていてよかったなあ」と思いました。「こんな食べ方があったのか」の初体験もありました。幾人かは餅を持ち帰ることの無い“参加することに意義あり派„の人でした。いろいろ覚えたり知ったり、得することの多いま～ゆのイベントで、更に会員の気心を知るのはとても愉快なことと思います。

この会報が同じような効果を生むきっかけになっているかどうかを別にしても、どのような形でも自ら臆せず参加する意欲は持ちたいものです。今号にはお二人が自主投稿されました。編集担当から「おねがい」しなくても原稿が入ってくるようになったらなぁ。ふと、そんな気持ちになりました。

都々平